ロープレスキュー操法

このロープレスキュー操法は、救助隊員として必要な素養の確認に用いるものであり、突破できることが望ましい時間として基準タイムを設定しています。よって、基準タイムは突破できていれば十分であり、さらなるタイムの短縮ではなく精度の向上や、次のステップに進むことが重要です。

「基本結索」

1 共通事項

①服装

手袋の着用は必要としません。

（全て達成後は手袋を着用の上で達成を目指してみましょう）

②開始時の姿勢

手は膝に、ロープは机または床の上に置く。「はじめ」の合図で結索し、ロープを置き、元の姿勢に戻る

③結索の作成について

a.ロープの端末は直径の十倍以上かつ２０ｃｍ未満とする。

11mm ロープの場合 11cm。メーカーによっては指示内容が違うため、その場合は取扱説明書に従うこと。

b.結索内によれ（ねじれ）がないこと

c.充分に締め込むこと　※結索部にペンを差し込んだ時、先端が潜り込まない程度

④注意事項

早く作れることは重要ですが、仕上がりが正確かつ整っていることが最重要です。前述のルール通りかつ迅速な作成を目指しましょう

2 結索の種類

①８の字結び（フィギュア-エイト-オン-ア-バイト）基準タイム２０秒

結索部は米粒形。

一結び（ヒューラー）のような団子状にならないこと

ループは 10cm 未満、

端末は 10cm 以上 20cm 未満

②もやい結び（ボーライン-ノット）基準タイム１５秒

ループ、端末ともに 10cm 以上 20ｃm未満とする

③外もやいむすび 基準タイム１５秒

ループ、端末ともに 10cm 以上 20ｃm未満とする

④蝶結び（アルパイン-バタフライ-ノット）基準タイム１５秒

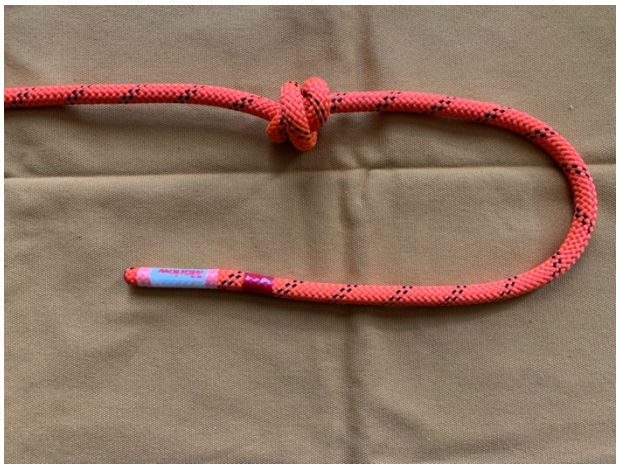
結索は「T」型に整形すること

ループは 10cm～20cm 程度とする

⑤止め結び（ダブル-オーバーハンド-ノット、ストッパー-ノット）：基準タイム５秒

ロープの使用していない端末の端末処理

結索の仕上がり（巻きのロープの流れ）に注意



⑥～⑨ 端末処理　基準タイム＋20 秒

①～③の各結索に止め結びによる端末処理を実施する。

元の結索部と、止め結びとの間は密着させること

端末は 10cm 以上 20cm 未満

「ロープ登はん」

基準タイム 240 秒

引き上げ訓練塔（7m）において、自身でロープを設定し、降下、登はんして帰着する

a.装備

１０m以上のロープ２本（または 20m以上のロープ１本）

60cm～100cm のスリング３本、カラビナ３個、フルハーネス（自己確保用ランヤード１組）

下降器具、登行器（アッセンダー）ライフライン器具

b.進行と細則

開始前

・フルハーネス以外のロープや資器材は床上に置いておく

・ロープに結索がない状態、スリングはカラビナに接続しない状態で開始する

・安全のため、マットを敷設し、開口部の転落防止チェーンは外さずに実施すること

結索開始→自己確保

・結索は「８の字結び」とし、「止め結び」による端末処理を使用すること

・下方端末には「止め結び」を実施すること

・結索の評価については結索の規定内容に準拠すること

・スリングを上部縦方向の支点パイプに設定し、開口部付近へ進出する際の自己確保とすること

ロープ設定

・スリングを用いて、開口部の上部支点へロープを結着する

・ロープバッグおよびロープは投げ落とさず、上から送り出すこと

降下準備

・ライフライン器具（ビレイロープ）を装着、点検

・下降器具を装着、点検　※自己確保を使用したまま、訓練塔内部で実施すること

降下

・下降姿勢をとり、自己確保を解除して下降する

停止→登はん準備→登はん

・赤線に両足（かかとから爪先まで）がおさまる位置で空中停止し、仮固定する

・登行器を設定し、登はんする

到着、離脱

・開口部に到着し、自己確保を設定する　※到着時、床に手をついて這い上がらないこと

・内部に入ってから下降器具、ライフライン器具の順番でロープから外す

・メインロープ、ビレイロープから離脱できた時点で終了とする

「倍力設定一法／二法」

基準タイム 120 秒

要救が吊り下がったロープに滑車等を設定し、倍力を組んで引く

a.装備

一法：シングル滑車 3、プルージックもしくはセンダー器具 2

二法：シングル滑車 1、ダブル滑車 2、プルージックまたはセンダー器具 2

b.進行と細則

開始前

・資器材は床上に置いておく

・要救は支点に設定された PMP または下降器具（ID,MPD など）により宙吊りになっている状態

・訓練塔を使用する場合、開口部の転落防止チェーン等は外さずに実施すること（安全対策）

進行（一法）

・３倍力を設定し、二度、ロープを引く（以下、監督者の「よし」で完了とする）

・５倍力を設定し、二度、ロープを引く

・７倍力を設定し、二度、ロープを引く

倍力設定一法

進行（二法）

・３倍力を設定し、二度、ロープを引く

・５倍力を設定し、二度、ロープを引く

・９倍力を設定し、二度、ロープを引く

倍力設定二法

注意事項

・作業時に仮固定を必要とする資器材の場合、仮固定（レバーロック）または端末を保持したままで作業すること

・作成した倍力のロープに「ねじれ」「よれ」がないこと

・仮固定の解除を忘れたまま引いた場合はカウントしない

・安全環の締め忘れ、仮固定忘れや端末保持忘れは失格、やり直しとする

結果表

結索		氏名				
①８の字結び	20	タイムおよび原点の有無				
②もやい結び	15					
③外もやい結び	15					
④蝶むすび	15					
⑤止め結び	5					
⑥８の字＋止め	40					
⑦もやい＋止め	35					
⑧外もやい＋止め	35					
個人技術						
ロープ降下	240					
倍力作成　１法	120					
倍力作成　２法	120					